

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070000254
法人名	社会福祉法人 育心会
事業所名	グループホーム白梅の里
所在地	福岡県京都郡みやこ町犀川久富1616番地
自己評価作成日	平成23年7月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年8月19日	評価結果確定日	平成23年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昔ながらの和風民家の特徴を生かし、馴染み深い雰囲気の中で、一人一人に合った時間を過ごせるような環境作りを大切にしている。また、食事は「地産地消」を意識した地元産の米・新鮮な野菜を使った食事を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して12年目を迎えている「白梅の里」は、豊かな自然に囲まれた中に日本家屋を改修して運営されており、周囲に違和感なく溶け込んでいる。1ユニットの利点を十分に活かし、個人個人の時間の流れを尊重した細やかな対応を心掛けており、入居者の方々もゆったりと過ごされている風景があった。日常的な散歩はそのまま森林浴となり、心身の活性化にも効果的となっている。入居時から「ふるさと訪問」を案内し、その時々々の希望や状況に応じて自宅を訪問し、仏壇へお参りする等、馴染みの関係が途切れない様に支援していくことに力を入れている。グループホームとしては低料金での利用が可能であることも特徴的であり、家族や地域、法人内外の連携を活かしながら、何気ない日常の暮らしの継続を支援している事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を食堂に掲げている。方針として、自分らしく日常生活を送ることができるように、地域と共に支援する。利用者の言語行動は否定せず、心の奥底にある不安を取り除く介護をする。新しい認知症ケアを確実に提供するため、全職員が研修に参加し、社会的信頼を確保する。	介護保険以前の宅老所から発展したグループホームとして、初心にかえりながら、法人理念のもとに、ホーム独自の理念が作成されている。会議等にて振り返りや確認の機会を持ちながら、実践に向けた取り組みを行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夕涼み会へのお誘い・散歩の際の声掛け・地域の行事への参加(あき缶拾い等)・保育園児の来園や運動会の見学等により、地域の方々と交流を持つようになっている。	開設して12年目を迎え、様々な地域行事や活動に参加し、地域住民の一員として日常的な交流の機会がある。地域の伝統行事である盆踊りでは、ホームへの巡行を受けたり、各家庭への巡行に参加したりと、交流を深めている。保育園児の訪問も年間行事に組み込まれ、利用者の楽しみとなっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治区会に加入し、地域の方々から相談があるときは、実践をととしてのアドバイスをしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・行政・地域の方等の意見を聞き検討したうえで、サービスの向上につながる意見は改善へつなげるようにしている。	家族、町福祉課職員、区長、副区長、福祉相談員の参加を得て、定期的に開催されている。地域からの情報提供や、ホームの現状を報告し、意見交換を行いながら、運営に反映させて行っている。議事録は家族全員に送付し、連携の共有を図っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の報告を行いながら、書類の提出等はあるべくみやこ町福祉課の窓口へ行くようにしており、利用状況の相談や意見の交換等を行い連携をとっている。	みやこ町事業者連絡会、グループホーム連絡協議会、社会福祉協議会井戸端会議等に定期的に参加し、情報の共有や町役場との連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠することの弊害は理解しており、センサーを取り付けているが、状況に応じ施錠を行っている。	基本的には、日中の玄関の施錠は行っていない。現状について、運営推進の中で報告を行いながら、やむを得ない事例については、同意書の作成、及び解除に向けた視点を持ちながら支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修には行っていないが、虐待が見過ごされないよう、職員会議等で話し合い注意を払っている。		

福岡県 グループホーム 白梅の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業・成年後見制度についての研修会に参加していない。成年後見制度についてのマニュアルは作成している。	現状として、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している方はいない。現状としては、権利擁護に関する制度についての研修は行われていない。	今後は行政との連携を図り、研修を実施する意向があります。制度に関する知識を深めながら、運営推進会議等を活用した情報発信にも期待します。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約をする際は、必ず家族宅を訪問し、十分に説明をしたうえで家族の意向を確認している。お互い納得できてから契約・解約の手続きを取っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議または面会時にコミュニケーションをとり、意見を出せるよう配慮している。また、介護相談員の方に毎月訪問して頂き、職員へ話づらい意見等伺ってもらっているようにしている。	家族の面会が多く、その都度の要望や意見を真摯に捉え、職員全員が共有しながら支援に生かして行っている。毎月、介護相談員の訪問があり、サービスに関する利用者の意見や要望を第三者へ表せる機会を設けている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を必要時に行い、また通常勤務時間でも意見を聞き反映できるよう対応している。	出勤者の多い時や、必要時に随時会議を開催し、職員意見を求めている。事業所内で解決出来ない事は、代表者会議等、法人間の連携も図り、全体での検討が行われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤職員には人事考課制度を取り入れている。また、非常勤職員に対してもケアマネや介護福祉士の資格によって賃金アップになっている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたって制限はしていない。また、職員が目標をもって働き、努力が給与に反映するよう配慮している。	法人としての採用となり、性別や年齢等を理由として、採用対象から排除しない。採用時には資格や経験は問わないが、人事考課制度を導入し、資格取得を給与面に反映させ、スキルアップや質の向上、モチベーションの確保につなげている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で定期的に、社会保険労務士による職員のキャリアに応じた研修会やカウンセラーによる心理学の勉強会を行っている。	法人内研修において外部講師を招き、定期的に学ぶ機会を持っている。様々な視点から人権尊重への意識を高め、法人全体で人権教育、啓発に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム 白梅の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡県社協等の研修会にはなるべく参加し、レポートをまとめ職員会議等で発表している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、お互いにサービスの質を向上するべく情報の交換を行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現在の状況を把握するためご自宅を訪問し、利用者の意向を確認、ニーズにどのように対応するか、充分検討している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を十分に聞き、対応できるように努力している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学やショートステイ等で気軽に利用して頂き、納得の上で入所できるよう相談に応じている。また場合によっては同法人の特養施設での対応に努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間の許す限り寄り添い、ゆっくり過ごす機会を持つように努めている。また、仏壇のお花を供えたり、豆の皮をむいたり、昔からなじんでいる仕事を自然にできるよう支援している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事に参加して頂けるよう案内状を出したり、できるだけ面会に来ていただくように連絡して家族との関係が希薄にならないよう努めている。また本人の希望があれば、職員が付き添い「ふるさと訪問」を行うように努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問を行い、近所の方とコミュニケーションがとれるように対応している。	入居時に、「ふるさと訪問」について説明し、希望や状況に応じて、随時、自宅へ訪問し、仏様へのお参りなど、馴染みの関係が途切れない様支援を行っている。	

福岡県 グループホーム 白梅の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は全員なるべく居間に集まるように声掛けし、お互いコミュニケーションがとれるよう、職員が見守っている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も特養への入所手続きを援助する等、退所後の方向性を決める支援をしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネによる利用者の意向の確認と家族の意向の確認を行っている。	毎月のモニタリング、カンファレンスにおいて、情報共有、検討を行い、利用者本位の自立支援につなげるよう取り組んでいる。意思の表出が困難な場合は、家族からも情報を得ながら、本人本位の検討に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時の担当ケアマネと連携を図り、これまでの生活歴の把握に努めている。また、できるだけ自宅の荷物を持ってきて頂くよう家族に依頼し、グループホームの生活に慣れやすいように対応している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活状況はケース記録に残し、必要に応じて職員で話し合い、状況把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人に必要な対応ができるよう、介護計画を作成しているが、関係者との話し合いが充分とはいえない。	毎月、モニタリング、カンファレンスを実施し、現状の確認や検討を行いながら、見直しにつなげている。日々の細やかな観察が、介護計画に反映されている。	かかりつけ医への受診は基本的に職員が同行しており、情報共有や意見交換の機会として積極的に活かし、連携を深めながら、ニーズに応じて介護計画へ反映させていけるよう取り組む予定としている。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入するとともに、連絡がスムーズにいこう、伝達事項を日誌に記入している。		

福岡県 グループホーム 白梅の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人施設の行事に家族とともに参加する機会を設け、外出・交流の場となっている。地域の高齢者の状況に応じて、必要があれば居宅支援事業所との連携により支援している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふるさと訪問や家族の協力を得て、入所前に生活していた地域の方々との触れ合いを持てるようにしている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向により、入所前からのかかりつけ医に継続して受診できるように対応している。職員が受診に付き添い、医療機関と連携して利用者の健康管理に努めている。	入居前からのかかりつけ医への受診を支援し、基本的に職員が同行している。各協力医との連携を図り、適切な医療が受けられるよう努めている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による適切な受診と看護を提供できている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に退院後の対応を病院・家族と話し合いながら、早めに決定している。また、入院者には面会に行き、病院関係者との関係づくりも行っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応については、入居時に説明を行い、状況に応じて医療機関や同法人施設への紹介をしている。	入居時に、重度化や終末期に向けての指針を示し、同意を得ている。その都度の変化に応じ、利用者、家族、関係者との話し合いを重ね、法人内の連携も含めた、支援の方針を共有している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成しているが、すべての職員に対して訓練を行ってはいない。ある程度の理解はできている。		

福岡県 グループホーム 白梅の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回の避難誘導訓練を行っている。また、地区の区長と災害時の避難について話し合いをしている。	2ヶ月に1回、利用者の方々とともに、主に夜間帯を想定した避難訓練を実施しており、年1回は消防署の立会いを得ている。区長の協力のもと、消火栓の確保や水害時に連携を図った実績がある。災害時の持ち出し品を準備している。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一つの家の家族の一員として、人格を尊重した言葉かけを行い、居室への入室の際には必ずノックをする等の配慮をしている。	外部講師を招いて行われる法人内研修では、職業倫理や接遇について学ぶ機会を持ち、人柄やプライドを尊重した声かけや対応に努めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアマネが利用者一人一人の意向を確認しながら、自己決定できるように対応している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの時間を大切に考え、できるだけ自由に過ごせるように、一日の細かなスケジュールは作らないようにしている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んで着たり、美容院で好きな髪形にしたりしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度が高くなり、準備が一緒にできる方がいなくなってきたが、後片付け等はできるだけ協力していただき一緒にしている。家族や地域の方から旬の食材の差し入れを受けることも多く、新鮮な野菜が食卓を彩っている。	家族や地域からの旬の食材の差し入れを頂くこともあり、栄養士の職員の献立で豊かな食事内容となっている。職員共々食卓を囲み、和やかな会話となっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士・看護師の配置があり、旬の野菜を中心とし、肉・魚を交互に取り入れる等の工夫がされた献立を作成、バランスを考慮している。食事摂取量を記録し、状況により水分摂取量も記録している。		

福岡県 グループホーム 白梅の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後は口腔ケアを行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ自分で排泄できるよう、過剰な手助けをしないよう話し合って対応している。	一人ひとりの排泄パターンを職員が把握し、トイレ誘導し自立支援を行う。リハビリやパット等使用しながら、日中のオムツ外しに力を入れている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、なるべく下剤を使わずに済むようにトイレ誘導を行っている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば毎日入浴できるし、入浴チェックをして何日も入浴を拒否している方がいないか注意している。また、ゆっくり入浴できるよう配慮している。	毎日、午後の時間帯で、柔軟な対応を行っており、毎日の希望にも対応している。拒否される方には、タイミングや声かけの工夫により、その方に合わせた促しを行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由時間が多いので、それぞれ自分のペースで休息している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師による服薬チェックを行っており、主治医と相談しながら対応できている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の整理や掃除の手伝い等、できる範囲で手伝ってもらっている。家族の協力を得て、自宅訪問したり気分転換を図っている。		

福岡県 グループホーム 白梅の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>気候の良い時は近所への散歩に出かけたり、法人のバスを活用してドライブや買い物に出かけている。</p>	<p>1ユニットの利点として、きめ細かい一人ひとりに合わせた個別支援が行われている。自然環境に恵まれ毎日の散歩は森林浴となつて、健康維持の効果となっている。希望によって「ふるさと訪問」も行う。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人の状況によって違うが、自己管理できる方には使えるように支援している。(少額)</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話ができるような支援をしている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間に畳を取り入れて、馴染み深い和風の雰囲気作りをしている。障子により採光の調節が行われている。</p>	<p>畳敷きで障子戸のある居間兼食堂には仏壇も置かれ、昔ながらの暮らしぶりの延長となっている。ゆったりとしたソファが置かれ、利用者同士で会話を楽しんでいる。玄関の段差はそのまま残し、車椅子対応のスロープがつけられている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間の居間では、お互いに気の合う者同志で席をとっている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>できるだけ、家で生活していた時の使い慣れた物を持ってきてもらうようにしている。</p>	<p>民家が改修された各居室は、襖に畳敷きの和室とフローリングが用意されている。思い思いに馴染みの品々が持ち込まれ、温かい設えとなっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室に表札を付け、またトイレの場所などわかりやすいように工夫している。</p>		